



## 福井県英語教育研究大会における 福井市英語科教員の取組に感謝

福井県英語研究会副会長  
西 健

令和6年11月1日（金）に「福井県英語教育研究大会」が福井市光陽中学校で行われました。中学校としては令和4年度の若狭大会以来2年ぶりの開催でした。144人の小中高の教員等が参加し、盛況のうちに研究大会を終えることができました。

福井大会の開催にあたって、福井市の全英語科教員が授業研究や準備・当日の運営等を行っていただきました。すばらしい大会を企画・運営してくださいましたことに感謝申し上げます。

「自分の考えや気持ちを伝え合い深め合う生徒の育成 ～言語活動を軸とした単元・授業デザインの工夫～」の研究テーマのもと、令和4年度末から研究や準備に取り組みました。

授業研究においては、令和5年度から福井市の4中学校（棗・藤島・足羽・森田）で行い、成果や課題を積み上げました。プレ授業は光陽中学校で2回（7月5日、10月1日）行いました。上田外史彦教授（金沢学院大学）、高木裕代指導主事（福井市教委）に指導助言を依頼し、貴重な指導助言をいただきました。大会当日の公開授業では、授業者と生徒、生徒同士のやり取りを通して、単元を通してめざす「Universal Design」につなげ、生徒は苦勞しながらも自分の考えを英語で表現することができました。

さて、近年、教員の働き方改革が叫ばれています。福井大会開催にあたって、限られた時間の中で本来の目的である「授業研究」に英語科教員が集中できるために、何が必要で、何を縮小・廃止できるかについて、大会実行委員長と実行委員が何度も話し合いました。

研究大会を行う上で重要視したのが授業研究でした。授業内容や単元・言語活動等の振り返りを重視する一方で、プレ授業や当日の指導案の事前検討を極力少なくしました。授業研究に係る会議の精選と縮小・時間短縮に努め、メールやアプリ等のWEB上で意見交換をしました。

縮小・廃止したものとして、開会行事の時間短縮、来賓招待の廃止、研究紀要や資料における紙媒体の廃止、発送文書の軽減等でした。

中学校での研究大会においては、通例、義務教育課長や関係市町の教育長、指導主事を来賓として招待していましたが、これを廃止しました。指導主事等を含めて全員が「参加者」意識で大会に参加することをめざしました。

研究紀要や資料については、冊子を作製せず、参加者が所定のWEBからダウンロードして持参することにしました。印刷会社と連絡・調整する必要がなくなり、大幅な経費削減になりました。

発送文書については、来賓招待を廃止したことにより文書業務が軽減され、大会後の関係機関への礼状発送も行いませんでした。事前に関係機関にその旨を伝え、了解を取りました。



講演会については、近年、若手の英語教員が増えたことを踏まえ、参加者が学びを深めることができる講演会を模索しました。講師が参加者と意見交換することを通して、毎日の授業に関する疑問・困りごと等を共有し、解決への糸口を考えることができる講演会になりました。

このように、従来の研究大会と比べてスリム化した大会を開催できました。福井市の先生方のご尽力に重ねて感謝申し上げます。2年後は南越地区で本研究大会が開催されます。福井大会での改革をさらに前進させ、最も重要な「授業研究」に英語科教員が集中して取り組めることを願っています。



## 英語研究会への思い

福井県英語研究会副会長  
磯野和之

英語研究会の会員の皆さまには、平素より本研究会の活動について多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、福井県英語研究会は企画部、放送テスト部、広報部、研究部、事務局の5つの柱から構成されていることはご存じだと思います。その柱の中から、例えば企画部ですと弁論や英作文、セミナーなど、また研究部の中にはTEFLやリーディングテスト、ディベートなどの委員会へと、それぞれの部がさらに枝分かれをしています。それぞれの部や委員会で中学校・高等学校の多くの先生方が日々、ご骨折りいただいていることによって、現在の福井県の英語教育の様々な核をつくっていただいているといっても過言ではありません。一例を挙げてみれば、中学校での教科書をベースに作成された放送テストやリーディングテストを使用することによって生徒の聞く力や読む力を高め、それに付随するスキルを上達させたり、弁論大会やディベート大会の中で話す力や積極的な態度、論理的思考力を高めたりと多岐にわたった活動が有機的に繋がりながら、生徒たちのオール・ラウンドな英語運用力の育成に欠かせないものになっていることは紛れもない事実です。

振り返れば、私自身TEFL委員会やリーディングテスト委員会で長年にわたり活動に参加させていただきました。TEFL委員会では、その時代に焦点化されていた話題を取りあげながら実際にどのように授業を展開していくのか、またいかに評価をするのかを研究しました。リーディングテスト委員会では、中学校の語彙・文法を用いながら、生徒たちが興味を持って読みたくなる内容の英文（作品？）を作りあげ、作問をしていたことを思い出します。実際に教室にいる生徒の皆さんをイメージしながら、授業プランであったり英文を作っていたりしたわけですが、決して容易な作業であったとは思いません。委員会のメンバー内で議論を重ね、最善のものを完成するには自ずと時間もかかりました。そして、そこから生みだされたものを先生方に利用していただき、自分自身の生徒のみならず他校の生徒の皆さんが着実に成長し続けていくことを実感することは喜びでした。

ところで、これら活動から生じたアウトプットが、生徒にとっての英語力の育成や人間的成長に繋がることは勿論、実は教師としての私自身の力量を高めてくれるというフィードバック効果を強く実感してきたというのが本音です。TEFL委員会での研究を進めるために多くの文献にあたり、メンバーで試行錯誤した内容を報告書にまとめ、自分自身が実際の授業で実践してみる。リーディングテスト委員会で培った文章作成力が定期考査の問題作りに生きてくる。振り返ってみれば、非力であった一英語教師の根幹をこれほど固めてくれたものはなかったと考えています。英研の様々な活動や運営に直接関わられた先生方も、おそらく同感していただ



けるのではないかと思います。

英語研究会の各部や多くの委員会活動は学校外での活動が主といえます。働き方改革が叫ばれる中、以前のフォーマットをそのまま踏襲した形での活動は難しくなっています。そのような状況でも、多くの先生方のご理解とご尽力を賜りながら各部や各委員会が新たな運営方法を試行錯誤する中で進んでいることには感謝しかございません。変革の時代にありながらも、英語研究会の活動が生徒の皆さんと先生方の双方に大きな成果として現れることを切に願っております。

最後になりますが、今後とも本英語研究会活動へのご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。